

## 「益田高友家文書」 —新収史料の紹介—

本年、山口市在住の御子孫より「益田高友家文書」が文書館に寄託されました。

益田高友家は藤原姓。中世西石見最大の国人領主であった益田家の分家で、応仁・文明の乱で活躍した益田貞兼の四男兼勝に始まります。戦国期は益田家の親族として活動し、大内氏やその有力家臣と直接交渉を持っていました。近世に入り、益田元祥の次男景祥が分家し（問田益田家）、周防国吉敷郡問田を本拠とした際に従い、その「家老」となりました。同家は、門名を「端詰」といい、菩提寺は山口市問田の光厳寺（浄土宗）です。益田高友は、この家の分家筋に当たる通安の子で、真政の養子となって本家（高友家）を継ぎました。明治期に益田周作は、御堀村戸長や矢田村戸長、大内村村長等を歴任しています。

文書は、32点で、永正15年(1518)～近世のものです。戦国期に、大内氏や尼子氏から受け取った書状類や益田本家から与えられた感状類のほか、由緒書、益田家をはじめとする諸家の系図、武術秘伝書等から構成されています。

本展示では、この「益田高友家文書」の一部を紹介します。

### 【展示リスト】

※途中で展示替をします。

番号	史料名	請求番号	8/30～9/7	9/9～18	9/19～28
①	大内義長書状	益田高友1(6の1)	○		
②	尼子晴久書状	益田高友1(6の2)	○		
③	益田宗兼感状	益田高友2(10の5)		○	
④	御感状其外万御判物之写	益田高友3	○	○	
⑤	御神本并益田家系図	益田高友5	○		
⑥	御神本氏并益田氏世系之図	益田高友6			○
⑦	鑑政	益田高友14		○	
⑧	〔新陰柳生家当流秘伝書〕	益田高友15			○

### 【解説】

#### ① 大内義長書状 〔天文 23 年(1554) 9 月 29 日〕

周防の大内義長(?～1557)が、石見の三隅家を許すように益田藤兼を諫めることが大事だと益田兼貴に伝えた文書です。

#### ② 尼子晴久書状 〔弘治 2 年(1556) 9 月 3 日〕

出雲の尼子晴久(1514～60)が、石見銀山を守る山吹城(現島根県大田市)ほかの城を攻略したことを、益田兼貴らに伝えた文書です。

#### ③ 益田宗兼感状 永正 15 年(1518) 6 月 26 日

益田宗兼(?～1544)が、石見国の三隅洞明寺山(現島根県浜田市)での合戦で、益田兼勝の家来が奮戦したことを褒めた文書です。

④ 御感状其外万御判物之写

延享2年(1745)9月

益田高友が、初代兼勝以来 236 年にわたって代々与えられた文書の中から、主家(益田本家及び問田益田家)からの文書を中心に書き写してまとめたものです。

⑤ 御神本并益田家系図

中臣鎌足を祖とする藤原氏の流れを汲む御神本家とその一流である益田家の系図です。益田高友家は、貞兼の四男兼勝(法名全勝)に始まります。

⑥ 御神本氏并益田氏世系之図

中臣鎌足を祖とする藤原氏の流れを汲む御神本家とその一流である益田家の系図です。益田高友家は、貞兼の四男兼勝(法名全勝)に始まります。

⑦ 鑑政

寛政2年(1790)9月12日

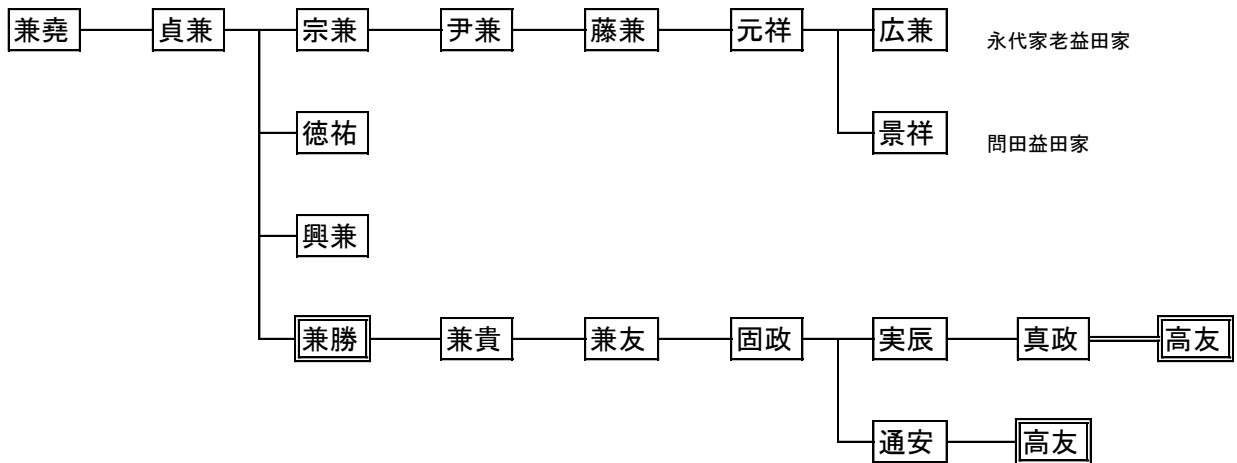
益田親賢(親愛)が、益田市郎右衛門ら家老に対して、問田益田家における治政の心得を示した文書です。

⑧ [新陰柳生家当流秘伝書]

天明3年(1783)4月15日

益田兼充(親賢, 親愛)が、益田市郎右衛門に新陰柳生家当流を伝授した文書です。

益田高友家略系図



問田益田家略系図

